

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



January

January 2023 vol.105

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

◆ 愛知用水（牧尾ダム建設時殉職者慰霊碑）

所在地：長野県木曾郡木曾町三岳

交通：木曾町生活交通システム三岳王滝線

「二子持」停南西約1.2km

知多半島は丘陵性の地形であるため、大きな河川が流れ込まず、昔から水の確保に苦労してきました。ことわざ「知多の豊年米食わず」は、知多半島が豊作となる水の豊富な年は、他の地域では水害がもたらされ不作になる、そんな様子を表現したもので、それほど水の得にくい地域でした。

愛知用水は、知多半島に安定して水を供給するために整備された用水で、幹線水路112km、分岐した支線の総延長は1,012kmに及びます。水源は長野県木曾郡王滝村と木曾町にまたがる牧尾ダムで、岐阜県可児市と八百津町にまたがる兼山ダム湖に設置した愛知用水取水口から、愛知池、佐布里池、美浜調整池の3つの調整池を経て、日間賀島や佐久島まで水を送ります。農業用水としての機能に加え、水道用水、工業用水の機能も持ち、愛知県を支える重要なインフラとなっています。

愛知用水建設に向けた動きの中心となったのが、知多郡八幡村（現在の知多市八幡町）の久野庄太郎と愛知郡豊明村（現在の豊明市）の浜島辰雄でした。農家に生まれた久野は、勉学に励み水の重要性を実感し、明治用水の成功を知って、知多半島にも用水を引くことを決心します。同じく農家に生まれ、安城農林学校の教員であった浜島は、久野の活動を取り上げた新聞記事を読み、久野のもとを訪れ意気投合し、愛知用水運動を展開していくこととなります。二人が出会った昭和23(1948)年には、愛知用水開発期成

同盟会が結成され、年末には吉田茂首相にも陳情を行うなど、運動が大きく進展します。その後、愛知用水公団が設立され、世界銀行からの融資と技術的な支援を受けて、昭和32(1957)年に牧尾ダム工事に着手します。関係者の多大な努力の結果、昭和36(1961)年、愛知用水はわずか5年で完成し、知多半島に安定的な水の供給がもたらされました。

愛知用水の建設にあたっては、困難な工事を進める中、56名の方が殉職されています。久野は知多の陶芸家・柴山清風に依頼し、ダムの土を使い500体もの観音像を制作し、犠牲者が出るたびに弔いに出かけたとのこと。

愛知用水建設にまつわる記念碑や慰霊碑は各地にありますが、そのひとつが、牧尾ダム管理所構内の牧尾ダム建設時殉職者慰霊碑です。ダムが完成した昭和36年5月に建立されたこの慰霊碑には21名の殉職者の氏名が刻まれており、毎年7月には、慰霊碑前で愛知用水建設殉職者慰霊祭が行われています。また、佐布里池湖畔にある愛知用水神社と愛知用水水利観音堂では、毎年5月と11月の水利観音春季祭、秋季大祭で、殉職者の法要が行われています。

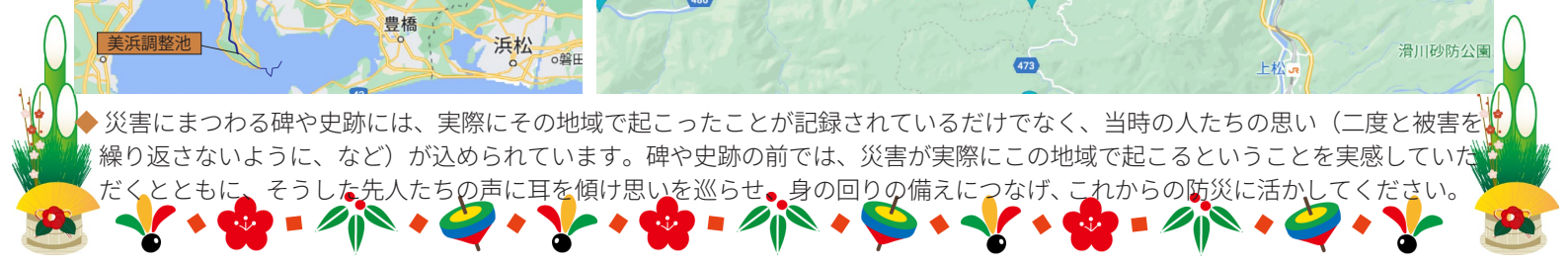
牧尾ダム管理所の構内にはこのほかにも、牧尾ダム完成記念碑や御岳湖碑石（御岳湖は牧尾ダムによるダム湖の通称）など、愛知用水にまつわる記念碑や慰霊碑があります。四季を通じ周囲の山々の彩りが織りなす御岳湖の美しい風景も絶品です。ぜひ一度現地に足を運んでみてください。



牧尾ダム建設時殉職者慰霊碑
(提供:水資源機構愛知用水総合管理所)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●佐布里池 (vol.59,2019.3)

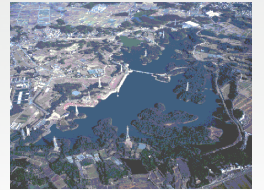
所在地：知多市佐布里

交通：知多バス「梅の館口」停東約500m

梅まつりで有名な知多市の佐布里池は、愛知用水から名古屋南部臨海工業地帯に工業用水を供給するために、昭和40年に建設され、現在では隣接する知多浄水場から知多市・東海市・阿久比町・東浦町の2市2町内の44の事業所へ、一日あたり約40万㎡の工業用水を配水しており、この地域の産業活動において、重要な役割を担っています。

佐布里池の湖畔には、表面に記載のとおり、愛知用水の建設にあたり犠牲となった56名を合祀する愛知用水水利観音堂が、愛知用水の発展を祈念する愛知用水神社とともに建てられています。(建設までの労苦は、機関紙『水の文化』36号愛知用水50年 <http://www.mizu.gr.jp/kikanshi/no36/01.html> にわかりやすくまとめられています。)

昭和40年に完成した佐布里池は、完成以降大きな地震を経験していませんが、明治24(1891)年の濃尾地震では、この地域で、小さなため池の堤の修理のための補助金の申請がなされており、ため池が地震による被害を受けていたことがわかります。佐布里池では、南海トラフ地震等の大規模地震を対象とした耐震診断の結果、貯水機能は維持されるものの、液状化による堤体の沈下や変形が生じる可能性が示唆され、これを抑制するため、平成31年に堤体の上流側(貯水池側)に押さえ盛土を施工する工事が行われました。補強により地震に対する安全性が高まることで、地震後の工業用水の早期復旧が実現し、ひいては、地震による産業の長期的な停滞の回避につながることを期待されます。



愛知県 HP より

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.59 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★白川氷柱群ライトアップ

白川氷柱群は、御嶽山から木曾水系の西野川に浸み出す伏流水が、岩壁の上から滴り凍って連なる氷柱群で、年によっては幅約250m、高さ50mにもなります。12月頃から氷柱が姿を見せ始め、寒さが厳しくなる1月から2月にもっとも大きく育ちます。県道20号線沿い、けやきの湯入口チェーン脱着場に車を止め、けやきの湯の裏手から川岸に降りると、氷柱群が持つ圧倒的な迫力を間近に感じることができます。



長野県公式観光サイト HP より

太陽の光を浴びた昼間の青白い氷柱群も絶景ですが、1月から2月にかけては、午後5時30分頃から9時30分頃までライトアップが行われ、ひととき美しい姿を見せます。ライトアップ消灯後の星空鑑賞も楽しみのひとつとなっています。

～鉄道で巡る～

名古屋駅から JR 中央本線・特急しなので約1時間半



木曾おんたけ観光局 HP より

木曾福島駅は、木曾地域の観光拠点となる代表駅です。木曾福島駅へは、木曾路エンジョイチケットのついた木曾路フリーきっぷもあります。

木曾福島駅から牧尾ダムやけやきの湯(下記参照)までは、本数は少ないですが、路線バスの木曾町生活交通システムで行くことができます。

●ブレイクタイム●

♪小坂温泉けやきの湯

小坂温泉けやきの湯は、県道20号線西野川沿い、裏手に白川氷柱群が控える天然温泉の一軒宿です。体の芯まで温まる豊富な湯量の温泉とともに、季節の山菜料理や岩魚料理で地酒を楽しむ、自然を満喫することができる宿です。西野川の清流で、秋まで釣りも楽しめます。

宿泊も、日帰りの入浴(午前8時～午後8時、400円)も可能で、氷柱群を見たあとに、けやきの湯で身体を温めて帰るのもおすすめです。



木曾路.com HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災 Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2023年1月)

